

東京 i CDC 運営委員会（第 3 回） 議事録

日時：12月24日（木）17時30分～18時40分

場所：第1本庁舎42階特別会議室A

出席委員：賀来委員長、大曲副委員長、館田委員（web）、今村委員、神谷委員

（web）、奈良委員（web）、猪口委員、角田委員（web）、山川委員

出席委員（都）：梶原委員、小林委員、吉村憲彦委員、雲田委員、田中委員、齋藤委員、

矢沢委員、成田委員、高橋委員、杉下委員、加倉井委員、吉村和久委員、

その他出席者：花本担当部長（感染症対策部）、森村尚登氏（東京大学）（web）

オブザーバー：吉田真紀子氏（web）、高橋千香氏（web）、渡辺ゆう氏（web）

議事1 東京 iCDC の活動状況について

（東京都より）

・資料1の説明

（森村先生より）

・資料2の説明

（賀来委員長）

- ・ 都では、安心な街づくりタスクフォースを設置し、都における歓楽街における感染拡大を防止する取組等について検討を開始した。座長を務めていただいている今村委員に検討状況をご説明いただきたい。

（今村委員）

- ・ このタスクフォースの大元は、国の大都市の歓楽街感染拡大ワーキンググループであり、座長として基本的な進め方を決めていた。
- ・ その中で、5つの視点で検討を進めてきた。1つ目の視点が、事業者、従業員、そして支援団体など、現場と対話する時間を惜しまないこと。2つ目の視点が、信頼関係を構築しながら、きめ細やかな予防策の行き届いた、安心できる街づくりを目指すこと。3つ目の視点が、差別や偏見にも十分な配慮を行いながら、慎重に対策を進めること。4つ目の視点が、早期に感染拡大の予兆を検知し、早期に対策を講じること。5つ目の視点が、以上の取組に重要な役割を果たす保健所に対して十分な支援を行うことである。
- ・ また、ワーキンググループでは、大きな都市にはタスクフォースを作ることを推奨している。これが、今回の安心な街づくりタスクフォースである。
- ・ 春先は銀座を中心としたクラスターが多発した。夏には、新宿を中心とした大きなクラ

スターが発生した。同じ夜の街と言っても、業者・地域・対象者は様々である。セグメント分けし、細やかな対策をとることが重要。

- ・ 対策や情報ツールも異なってくる。今後、セグメントに分けたところに対して、ヒアリングを開始する。
- ・ 委員は、保健所の方やリスクミの方など、最小限の体制とした。作業によって、必要なメンバーが変わるので、都度、速やかに体制を整え、進めていきたい。
- ・ 東京という大きな塊の中でも、地域毎に夜の街が存在している。最大公約数的な対策も出てくると思うが、それが通用するケースや、業種や職種別に対応しなければいけない対策もあると思う。的確な情報発信等により、行動変容につながるよう取り組んでいきたい。

議事2 東京 iCDC の今後の活動について

(東京都より)

- ・ 資料3の説明
- (賀来委員長)
- ・ 資料4の説明

(舘田委員)

- ・ 今日の新規陽性者数が888人ということを知り、改めて大変なことになっていると認識した。
- ・ 若い人が感染を起こしているが、若い人は見えにくく、氷山の一角を見ているだけで、かなり感染が広がっていると認識しなければならない。
- ・ 待ったなしで動かなければならないが、iCDCで皆さんとしっかり考えていきたい。

(賀来委員長)

- ・ 東京はいろんな方が集まるが、その人たちを制御するのは非常に難しい。都は、経済を回す、回さないも含め大きな影響がある。どういう対応をしていくのか、早急に模索しなければならない。

(梶原委員)

- ・ 4月の第1波、7月の第2波については、概ね国と都がワンボイスであった。しかし、秋の段階で、Go-Toの話があり、行ってよい・行ってはいけないという二つのメッセージが出てしまった。

- ・ 我々はワンボイスで行きたがったが、メディアからは、営業時間の短縮でも 22 時までなのか、20 時までなのかという点にフューチャーされてしまったため、国と都の意見が対立しているように見えている。短縮要請をかけて、本当に聞いてもらえるのであれば人流は止まるが、逆に従わないところも出てくるという問題もある。
- ・ 現状でも、ステイホームを発信しつつ、一方で 22 時まで営業してよいというメッセージにもなっており、非常に悩んでいる部分であるため、先生方にご意見を伺いたい。

(奈良委員)

- ・ 悩ましい状況だとは思う。営業時間の観点では、ワンボイスにはならない。
- ・ メディアは、国対都という構造にするのは簡単だし、好む。また、人は、自分に都合よい情報を好んで重視する傾向がある。
- ・ リスク管理を変えないのであればもっと広いところで、フレーミングを変えて、根っこのところでリスク対策をするというのは一緒だということを言っていないといけない。
- ・ すぐ出来ることと言えば、賀来座長がおっしゃった 5 つの約束など、良いコンテンツを何度でも出すということ。また科学的なエビデンスを出した取り組みを打ち出していくということがあげられる。

(賀来委員長)

- ・ 科学的な情報も含め、しっかり提供していかないと響かない。英国の変種についても解析していかないといけない。

(今村委員)

- ・ 外出自粛などは個人の変容を行政が求めているものだが、時短要請はそういった要請とは異なる。22 時を 20 時にしただけでは、効果は出ない可能性もあるが、やってみなければ分からない。

(賀来委員長)

- ・ 活発な議論をいただき、様々な貴重なご意見をいただいた。
- ・ 次回の日程調整については、事務局より後日ご連絡させていただく。